

技術情報

JA全農やまぐち

TAC・営農推進課(083-988-0681)

平成27年7月24日発行

第203号

I 平成27年度 第4回 水稻生育診断情報

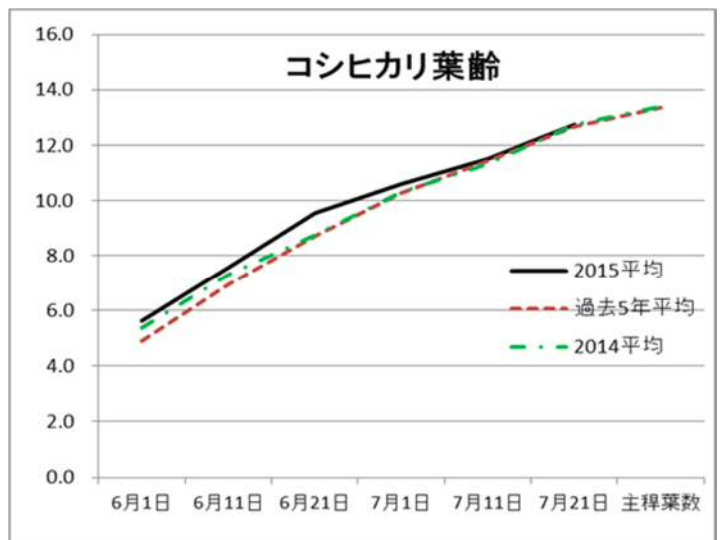
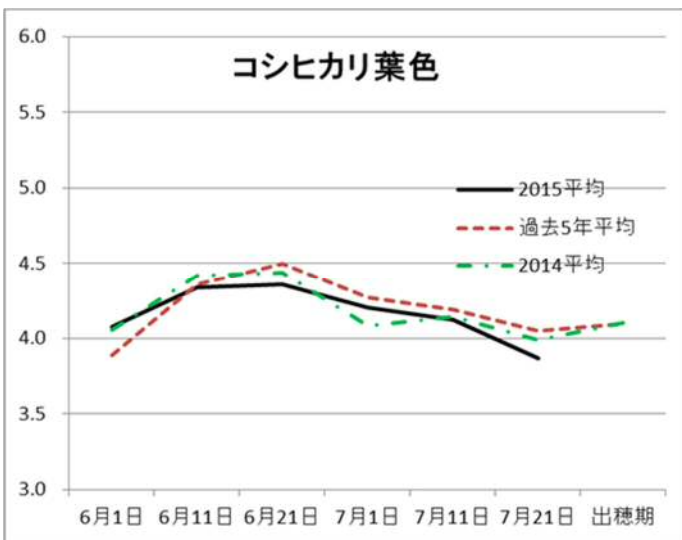
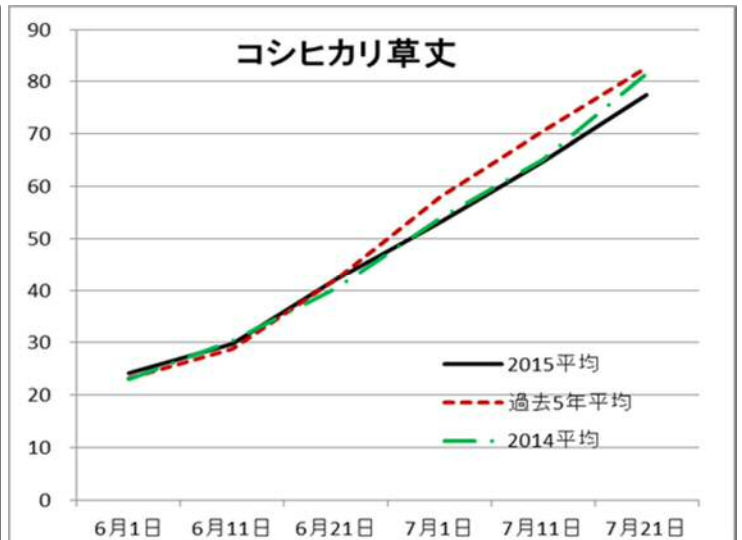
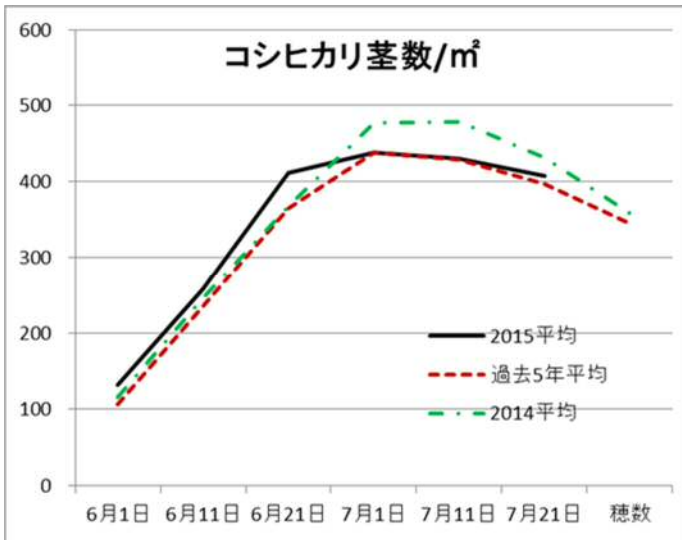
山口県農林総合技術センターからの水稻生育・栽培管理速報(No4)を基に技術情報を作成しました。
水稻栽培の管理指導にご活用ください。

1 気象概況

- ・6月上旬は、まとまった降雨があり、降水量が多く、日照時間は平年並～少なく、気温は平年並みからやや低かった。
- ・6月中旬は、梅雨天候となったため、日照時間が少なくなり、最高気温は平年並～低く、最低気温は概ね平年並みであった。
- ・6月下旬から7月上旬にかけては、天気が周期的に変化し、まとまった降雨があった。日照時間は平年並～少なく、気温は平年並～低かった。
- ・7月17日に中国地方を縦断した台風11号の影響は、軽微であった。

2 生育概況と今後の管理

(1) コシヒカリ(5月中旬植え)



①生育の概況

【葉齢・生育ステージ】

- ・植え付けから1か月は葉齢の進展が平年よりも早かったが、ここ1か月の気温が低かったため、葉齢の進展が鈍化し、ほぼ平年並みのまま推移している。幼穂の伸長の鈍化も見られる。

【草丈】

- ・平年に比べてかなり短く推移している。低温の影響で、平年との格差がより大きくなっており、平年と比べて5cm程度短い場所が多い。

【茎数】

- ・最高分げつ期前後の茎数の増減は緩やかで、順調な生殖成長への転換が進んでいると思われる。穂数は平年並みに確保されると考えられることから、 m^2 当り籾数も平年並みと予想される。

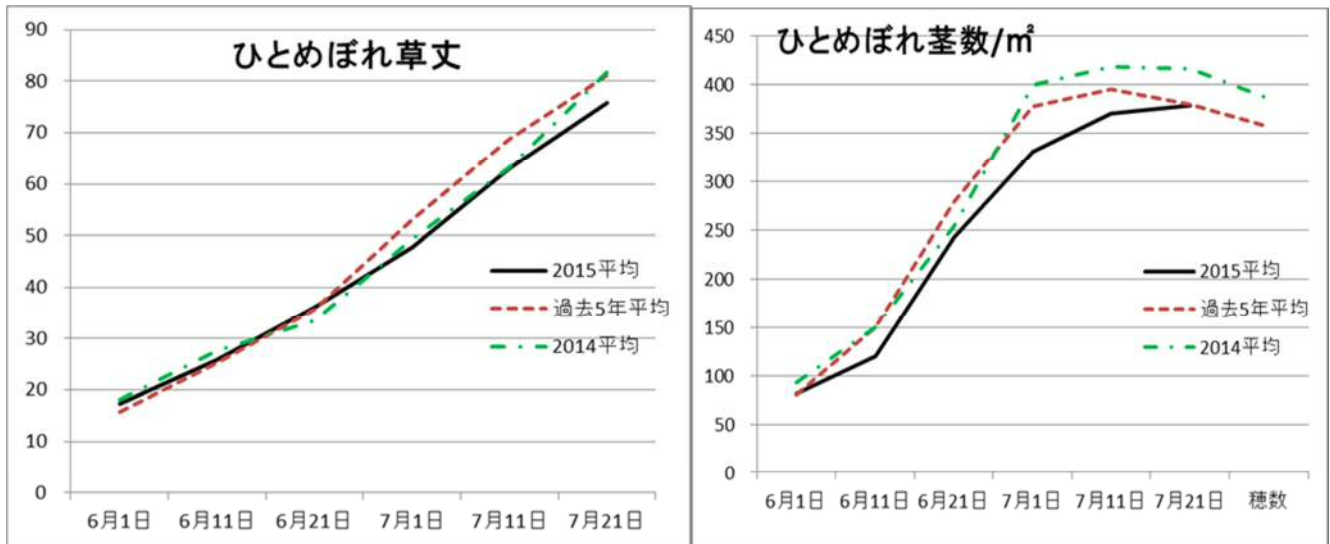
【葉色】

- ・茎数同様に、平年並～わずかに淡目で淡化も緩やかに推移していたが、今回調査では前回よりも更に淡化が進んでいる。

②今後の管理

- ・出穂は、平年並～2日程度遅いと予想される。
- ・全般的に淡化傾向が認められるので、分施の場合には穂肥のタイミングを逃さないように注意する。
- ・湛水管理を継続するが、梅雨明けなどで高温の気象が続く場合は用水の入れ替えや夜間のかけ流しを行う。
- ・葉いもちの発生が県内各地で確認されていることから、基幹防除は必ず実施する。

(2) ひとめぼれ (5月中下旬植え)



①生育の概況

【葉齢・生育ステージ】

- ・この1か月の低温の影響で、葉齢の進展はほぼ平年並～0.3葉程度遅れている。
- ・幼穂形成期は平年並～遅れている。今後、平年並みの気温で推移する場合には、低温による生育の遅れを取り戻すことができず、出穂期は遅れる見込み。

【草丈】

- ・平年に比べて5cm前後短く推移している。

【茎数】

- ・この10日間にも茎数の増加しているほ場が多く、やや高次の分げつが発生している可能性がある。茎数は概ね平年並みであることから、 m^2 当り籾数は概ね平年並みと予想される。

【葉色】

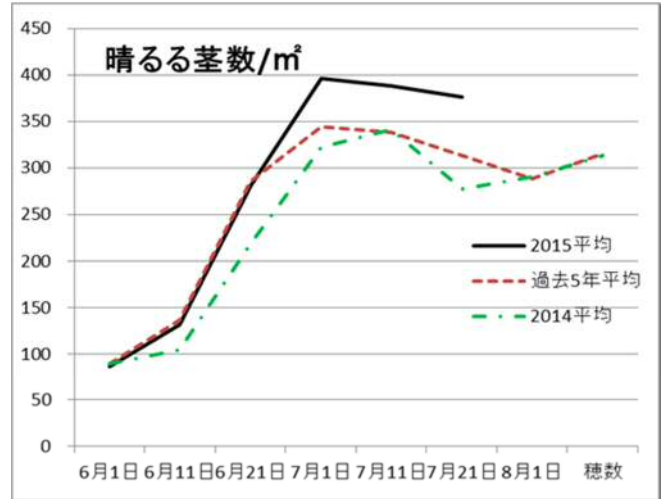
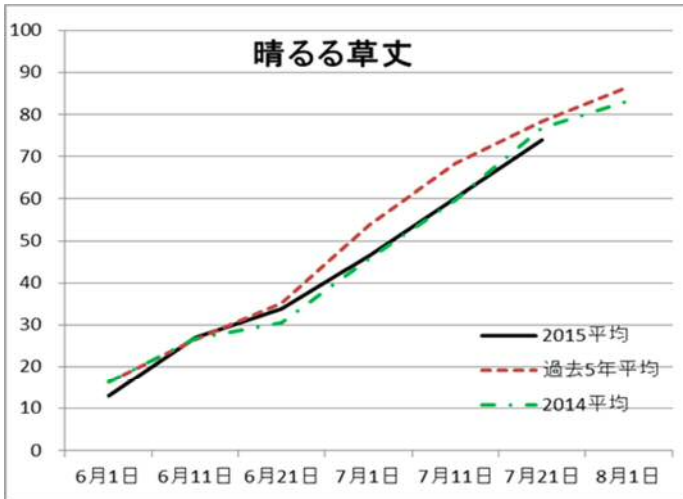
- ・20日前までは平年よりも葉色が濃くなるほ場が多かったが、この20日は緩やかに淡化しており、平年並み～やや濃く推移している。

②今後の管理

- ・出穂は平年よりも遅いと予想される。
- ・湛水管理を実施し、高温の気象が続く場合には、用水の入れ替えや夜間のかけ流しを行う。
- ・幼穂形成にバラつきがあるため、穂肥施用の場合は、必ず幼穂の状態を確認する。1回目の穂肥は、葉色板で4.0を基準とし、濃い場合は施用量を減らすか省略する。特に、葉色が濃く茎数が多いと弱小分げつが有効化されるので、施用には注意する。2回目の穂肥は出穂10日前までに施用するが、葉色が濃い場合には減量するか省略する。

・葉いもちの発生が県内各地で確認されていることから、基幹防除は必ず実施する。

(3) 晴るる (5月下旬植え)



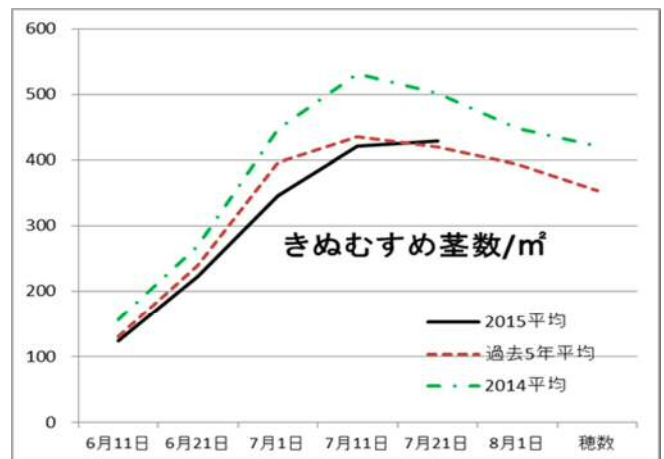
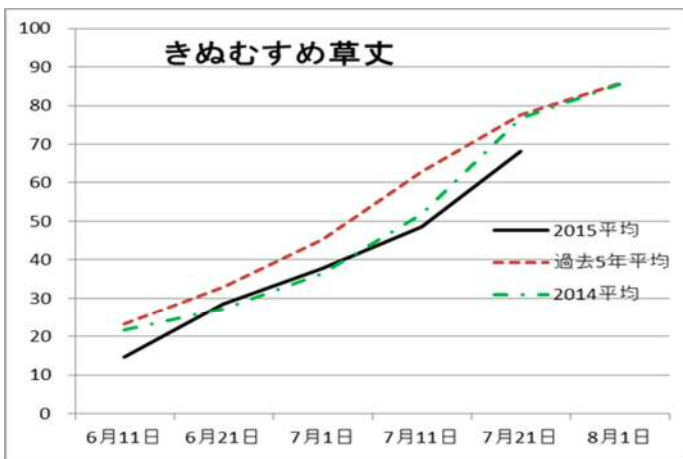
① 生育の概況

- ・7月21日時点の葉齢の進展は、ほ場によりバラつきがあるが、概ね平年並となってきた。
- ・生育ステージとしては、幼穂形成期を過ぎたところである。
- ・草丈は平年に比べて5cm程度短く推移している。
- ・茎数はほ場によるバラつきがあるが、茎数は平年並み～多くなっている。
- ・葉色は幼穂形成期に入り葉色は急激に淡くなる傾向である。

② 今後の管理

- ・出穂期は概ね平年並みと予想される。
- ・穂肥施用の場合には、葉色が濃い場合は葉色の淡化を待って穂肥を施用する。
- ・湛水管理を行うとともに、用水の入れ替えや夜間のかけ流しを励行して、根の活力維持を図る。
- ・葉いもちの発生が県内各地で確認されていることから、基幹防除は必ず実施する。

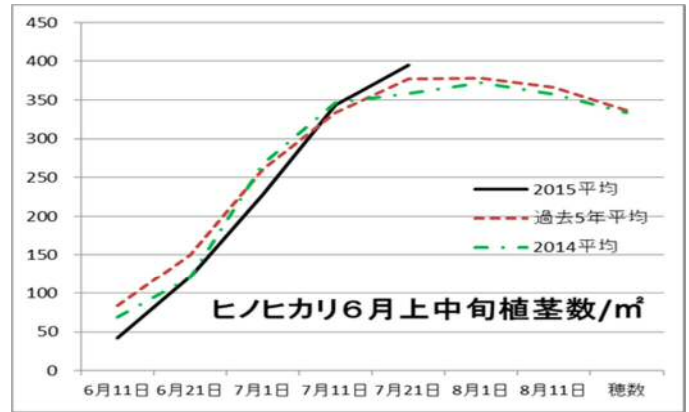
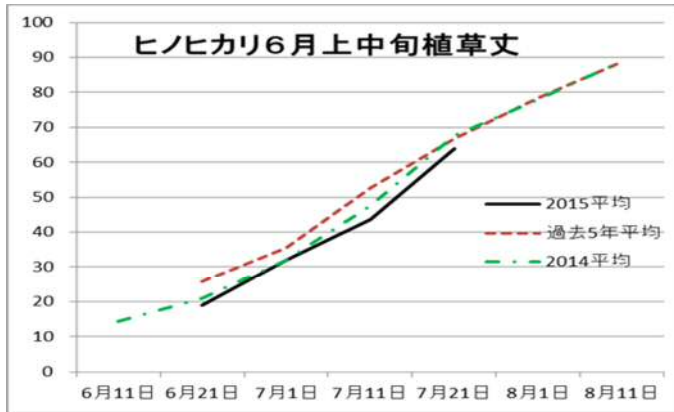
(4) きぬむすめ (5月下旬～6月上旬植え)



① 生育の概況

- ・葉齢は10日前に比べ平年との差はなくなっており、ほぼ平年並～やや遅くなっている。
- ・5月下旬植えの稲では、幼穂が観察されたほ場もある。6月上旬植えでは、概ね最高分げつ期前後である。
- ・草丈は低温の影響で平年並～10cm以上短く推移しており、6月植えで特に短くなっている。
- ・茎数は生育の進み具合が平年に近づいたことから、分げつの発生も平年に追いついてきている。初期分げつの発生の良否によって、ほ場間で茎数にバラつきがあり、平年よりm²当たり茎数が100本以上多いほ場や逆に少ないほ場があるが、全ほ場の平均値は、ほぼ平年並みである。

- ・葉色は、この10日前をピークに緩やかに淡化しているほ場が多く、平年並～やや濃く推移している。
 - ②今後の管理
 - ・5月下旬植えでは湛水管理に移行するが、用水の入れ替えや夜間のかけ流しを励行して、根の活力維持を図る。
 - ・6月上旬植えは速やかに中干しに入り、中干し終了後は間断灌水を実施して根の健全化を図る。
 - ・平坦部の稲でも葉いもちの発生が確認されていることから、病斑が確認されたら速やかに防除を行う。
 - ・ほ場に残っている補植用苗は、速やかに除去する。
- (5) ヒノヒカリ (6月上中旬植え)



① 生育の概況

- ・7月1日以降、低温の影響で葉齢の進展が遅れ始めた稲が多い。7月21日時点で、葉齢の進展は平年並～遅れている。多くのほ場で最高分けつ期を過ぎている。
- ・草丈はこの10日間は、日照時間が少なく、夜温がやや高くなったため、葉身が伸びて草丈は平年に近づき、平年並～5cm程度短く推移している。
- ・茎数は初期分けつの発生の良否でバラつきが見られる。全体的には平年よりもやや茎数が多い。
- ・大部分のほ場で葉色は10日前より淡化してきている。

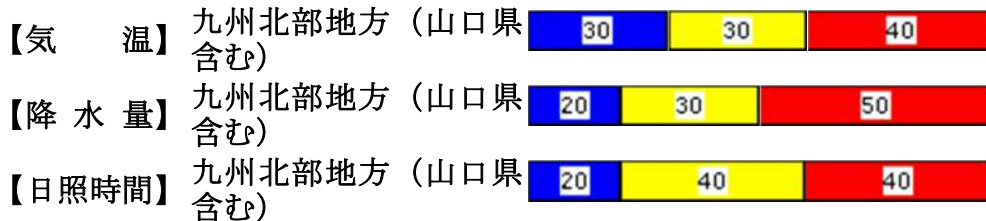
② 今後の管理

- ・平年よりもやや最高茎数が多い傾向であるため、7月末までを目途に中干しを確実に行う。茎数の少ない稲では強度の中干しを避け、中干し後は葉色の淡化が目立つほ場では、弱めの間断灌水とする。
- ・平坦地のヒノヒカリでも葉いもちの発生が確認されており、病斑が確認されたら速やかに防除を行う。
- ・ほ場に残っている補植用苗は、速やかに除去する。

3 病虫害の発生状況

- ・7月7日～9日の病虫害防除所の巡回調査では、葉いもちの発生ほ場率は4.7% (平年7.4%)、発病株率0.6% (平年1.7%)、発病度は0.1 (平年0.4) で平年並みであった。県内全域で発生が認められ、一部のほ場では、ずり込み症状が見られた。
- ・いもち病は、7月からの曇雨天によって稲の生育が軟弱気味となり感受性が高まっている状況にあることや、発生予察システムによっても7月5日～9日にかけて県内全域で感染好適条件が出現していることから、今後の発生は「やや多」の予想である。防除対策等については、「平成27年農作物病虫害発生予察技術資料第3号」を参照のこと。
- ・ヒメトビウンカとセジロウンカの発生量は「やや少」で、今後の発生は「やや少」の予想である。
- ・トビイロウンカとコブノメイガの今後の予想は、「平年並」であるが、今後の病虫害防除所の最新情報を確認する。
- ・斑点米カメムシ類の発生量は「平年並」で、今後の予想も「平年並」の見込みである。出穂2週間前までに草刈りを実施し、それ以後はイネ科雑草の穂が出ないように管理するとより効果的である。極早生水稲や雑草地周辺では、カメムシ類が集まりやすいので、従来の穂揃期の防除に加えて、穂揃期7日後にも防除する。

4 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)



凡例： 低い（少ない） 平年並 高い（多い）

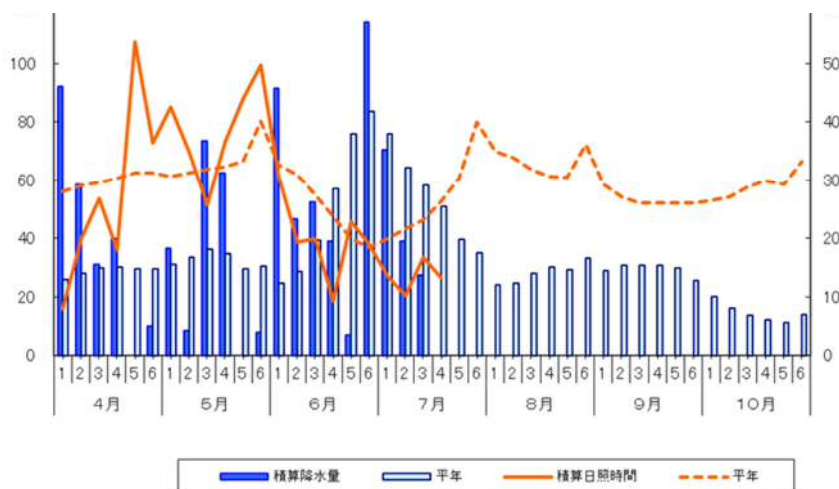
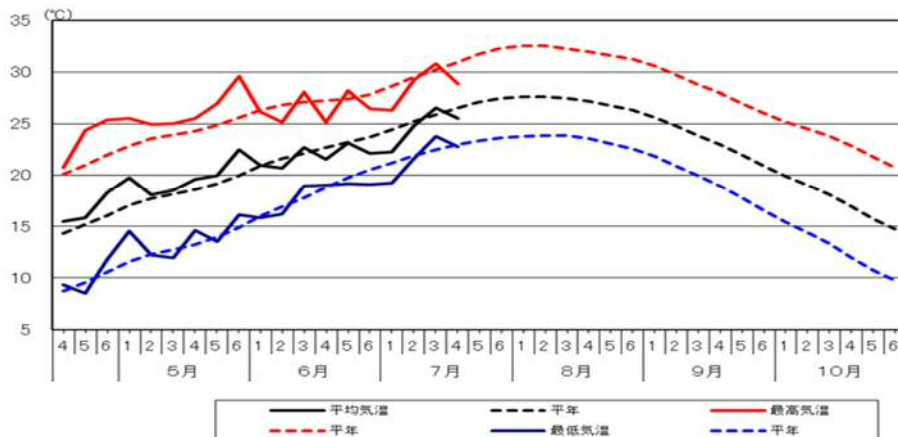
< 気温経過の各階級の確率 (%) >



凡例： 低い 平年並 高い

5 2015年度稲作期間の気象

1 気象概況



降水量・日照時間（アメダス山口）

5 定点調査の生育状況

水稻定点調査 7月21日時点の生育状況

品種	地帯	草丈 cm		茎数/m ²		葉齢		葉色	
			格差		格差		格差		格差
コシヒカリ	長門山間	76	▲ 4	453	13	12.8	▲ 0.0	3.8	▲ 0.3
	周防山間	73	▲ 2	439	52	12.1	0.0	3.9	0.1
	長門中間	82	▲ 3	351	▲ 18	13.4	1.0	4.0	▲ 0.2
	北浦	80	▲ 11	365	10	12.8	▲ 0.1	4.1	▲ 0.1
	瀬戸内東部	83	▲ 9	372	16	13.4	0.2	3.7	▲ 0.5
	平均	77	▲ 5	407	11	12.8	0.1	3.9	▲ 0.2
	農試定点	83	▲ 4	522	42	11.6	▲ 0.4	4.2	▲ 0.1
ひとめぼれ	周防山間	79	▲ 5	348	▲ 43	12.5	▲ 0.1	4.5	0.3
	北浦	67	▲ 6	381	4	11.3	▲ 0.3	4.1	▲ 0.2
	瀬戸内東部	77	▲ 4	350	▲ 36	12.1	0.0	4.5	0.3
	瀬戸内西部	77	▲ 7	467	115	11.0	▲ 1.1	4.0	▲ 0.2
	平均	76	▲ 5	379	▲ 0	11.9	▲ 0.3	4.3	0.1
	農試定点	73	▲ 4	522	40	11.7	▲ 0.4	4.0	0.0
晴るる	長門中間	74	▲ 5	376	62	12.2	0.2	4.4	0.2
きぬむすめ	周防山間	67	▲ 12	465	▲ 12	12.3	▲ 0.3	4.3	0.3
	長門中間	71	▲ 7	397	▲ 19	11.8	0.1	4.2	0.1
	北浦	65	▲ 9	459	22	11.2	▲ 1.6	4.3	0.1
	平均	68	▲ 10	429	9	11.7	▲ 0.4	4.3	0.1
	農試定点	77	▲ 4	661	138	11.6	▲ 0.3	3.8	0.3
ヒノヒカリ 6月上中旬植	北浦	69	69	459	22	11.2	▲ 1.6	4.3	0.1
	瀬戸内東部	64	▲ 1	418	26	11.0	▲ 0.3	4.2	▲ 0.0
	瀬戸内西部	61	▲ 5	380	19	10.9	▲ 0.7	4.2	▲ 0.2
	平均	64	▲ 3	395	18	11.1	▲ 0.4	4.2	▲ 0.0
	農試奨決	62	▲ 4	441	▲ 84	10.9	0.1	4.4	▲ 0.1
	農試定点	51	0	491	13	10.1	▲ 0.3	4.2	▲ 0.2
ヒノヒカリ 6月下旬植	瀬戸内西部	42	▲ 3	392	36	7.9	▲ 1.4	4.5	0.0